令和8年度版「学力向上ポートフォリオ（学校版）」【与野西中学校】

①	今年度の目標と学力向上策
重点的に育成する資質・能力	①根拠を明確にしながら、自分の考えを伝えることができる資質・能力（コミュニケーション能力） ②情報を整理し、複数の情報を関連付けて考えることができる資質・能力（情報活用能力）
⇓	
実施する学力向上策【時期・頻度】	①基礎的・基本的な知識・技能の定着を図るための反復学習の実施 具体的内容：「ドリルパーク」や小プリント、小テストを活用し、基礎的な計算や語彙、前時までの復習に取り組む。 【時期・頻度】：毎授業または毎単元 ②ICT機器を活用した、根拠の提示や情報の整理・関連付けを行う学習場面の設定 具体的内容：タブレット端末を用いた共同編集や話し合い活動を行い、資料から根拠を引用して説明したり、複数の情報を図や表で整理したりする活動を授業に取り入れる。 【時期・頻度】：各単元の中で1回以上

⑤	年度末評価	
学力向上策の実施状況	評価（※）	
⇓		
今年度の成果と次年度の課題		

※評価　A 8割以上（達成）　B 6割以上（おおむね達成）　C 6割未満（あと一歩）

②	全国学力・学習状況調査結果の分析
特徴的な結果	・国語では「情報の扱い方に関する事項」の正答率が高く、必要な情報を取り出す力が付いている。 ・数学の数学的なプロセスを説明する問題や、データの傾向を比較して判断の理由を説明する問題では、正答率が低い上に無解答率も高い。
⇓	
結果から考えられる児童生徒の実態	・情報の「取り出し」はできるが、それらを関連付けて「根拠」を説明する力が不足している。また、資料から必要な情報を探したり整理したりすることは得意だが、複数の情報を繋ぎ合わせ、「なぜそうなるのか」というプロセスや理由を論理的に言語化することに課題がある。 ・記述式問題への抵抗感が強く、あきらめてしまう傾向がある。特に数学の記述問題においては、解き方の見通しが立たない場合に、図や式、言葉を使って何とか表現しようとする試行錯誤の姿勢や粘り強さが不足している。

④	さいたま市学習状況調査結果の分析
特徴的な結果	
⇓	
結果から考えられる児童生徒の実態	

③	中間評価	
学力向上策の実施状況	評価（※） B	学力向上策(1)・(2)ともに引き続き実施していく。
⇓		
学力向上策の見直し	（変更なし）	

※評価　A 8割以上（達成）　B 6割以上（おおむね達成）　C 6割未満（あと一歩）